



WEEKLY REPORT



会長 築瀬 敦

= 築瀬 敦 会長スローガン =

“ロータリーのマジックを信じ 地域にマジックを掛けよう”

■例会日:毎週水曜日 12:30～ ■例会場:ホテルシーズン日南
 ■事務局:日南市岩崎3丁目4番地1-2号 Itten堀川ビル2F 創客創人センター内
 TEL:0987-22-3363 FAX:0987-22-3515

第3421例会	No.40	2025.5.21	
点鐘・ロータリーソング	12時30分 「我等の生業」		
四つのテスト	入中英雄君		
ゲスト	稲垣拓朗様 (有限会社落合衛生社)		
例会行事	結婚・誕生者卓話		

新入会員入会式



こんにちは。株式会社日南造園の松田圭司と申します。42歳になります。出身は桜ヶ丘になります。桜ヶ丘小学校、油津中学校、日南高校、北九州の大学、宮崎産業開発隊を卒業しております。学生時代は小学校5年生からバスケットボールをしていました。今でもバスケットボールがしたいのですが怪我をするとスタッフから白い目で見られる為、しておりません。仕事は造園業をしております。1960年創業、先代松田清が個人の庭造りからはじまった会社です。現在社員は33名で日々の業務にあたっております。皆さんが造園業と思われる業務とは少し違う内容をしております。個人の庭園造り、剪定等の管理、外構工事、市・県・国道の沿道の修景美化、スポーツ施設工事、観光名所の工事、公園工事等をしております。直近の実績だとスポーツ施設では令和9年の国スポの会場となる三股の運動公園の球場をゼロの下地からやり替えて先日オープンセレモニーにも参加させていただきました。また、ジャイアンツがキャンプの時に練習する木花の野球場の改修工事にも携わせて頂いております。観光名所では、青島の亜熱帯植物園のマーライオンの設置、周りの造成などそういったところも携わせていただいております。また、わんぱく公園、ハマボウ公園なども手がけた実績もございます。そういったところを日々の業務に当たらせていただいております。今年度から新しい挑戦として日南市の運動施設の指定管理の方に手を挙げさせていただいて、日南市の運動公園、天福球場、北郷のさくらアリーナ等の指定管理者として5年間運営をさせていただいております。あと、横浜FC、広島東洋カープさん、また大学の合宿の受け入れを頑張ってやって日南のPRに繋がられればと思いながら携わせていただいております。今まで8年間市から委託で地元のビルメンテナンスさんと東京の大手の会社がJVを組んで運営されていたのですが、私共に入れ替えをさせていただいて、地元の企業が地元の施設をしっかりと守っていこうという思いで挑戦をさせていただきました。そういったところで自社のPRとか日南でスポーツをやった良かったなというような環境づくりを作ればいいかなというふうに思っております。皆様とちょっと違う造園業を私は営んでおります。また、今年度日南商工会議所青年部の会長職を仰せつかっております。昨日も宮崎県連の総会があり、宮崎の方に行き苦手のこのしゃべりをみんなの前で喋ってきたところでございます。青年部の活動で一番大きなイベントでグッジョブフェスタというものがあります。小学校4,5,6年生と中学生を対象にした日南市の職業体験の場を提供しているという一大イベントで計画をしています。今年はソラシドエアーさんを職場体験の場に来ていただけないかと交渉を行っ

ております。毎年毎年バージョンアップしていくっていったところで、今年も面白い職場体験学習ができるんじゃないかなと思います。皆様も自由参加できますので、11月8日午前中に学びピアに来ていただき、どういったことをやってるんだという事を見ていただいて、ご指摘をいただければと思います。この度、ロータリーに入会させていただいて、何を学べるか自分にもわかりませんが、先輩方の素晴らしいスピーチを色々と聞かせていただき勉強させていただいて、この場で皆様と出会えることを大切に、また世界情勢、多方面と活動するといったところで、勉強をさせていただいて、自分も磨きの場とさせていただきたいと思います。本当若配もので何もわかりませんけれども、どうぞこれからよろしくお願いいたします。

松田 圭司君 (1983年4月14日生 42歳)

勤務先: (株)日南造園 代表取締役

会長時間



ノーマライゼーションとは、障害のある方や高齢者、外国人、その他のマイノリティの人々が、社会の中で自分らしく暮らせることを目指す考え方で、この理念の本質は、特別扱いをしないことではなく、誰もが普通の生活を送る権利を持っているということです。たとえば、障害があるからといって特別な施設に隔離されたり、高齢になったからといって地域社会から切り離されたりするのはなく、それぞれの人が当たり前の日常の中で、生活できる社会こそがノーマライゼーションの目指す世界です。すなわち、ノーマライゼーションとは、「あらゆる人が当たり前で生活できる社会、

環境を作る」という理念です。少し難しいのですが、「障害のある人たちに、障害の人たちと同じ生活条件を作り出すこと。障害がある人を障害のない人と同じノーマルにすることではなく、人々が普通に生活している条件が障害者に対しノーマルであるようにすること。自分が障害者になったときにして欲しいことをすること」となります。しかし、現実には社会のあちこちに、目に見えない壁が存在しています。段差の多い駅や、情報の届きにくい公共施設、他人に対する無関心や偏見。そうした小さな分断が、誰かを静かに排除してしまっているのです。ノーマライゼーションという考え方は、1950年代のデンマークで生まれました。提唱者は、知的障害者福祉に携わっていたバンク＝ミケルセンという人物で、デンマークの社会運動家、社会省の行政官です。若い頃に、ナチスの強制収容所に収監されたことがあり、自由のない、衣食住すべてにおいて制限された生活を経験しました。この経験が、後にノーマライゼーションを提唱するきっかけとなっています。彼は、障害のある人々が施設に閉じ込められ、社会から隔離されたまま生きる状況に強い疑問を抱きました。

ミケルセンは、障害のある人も、他の人と同じように普通の生活を送るべきだと主張し、その実現を目指す動きを始めました。この考え方はやがてスウェーデンやノルウェー、さらには世界各国へと広がっていきました。日本では1970年代に紹介され、福祉の分野を中心に、教育や就労支援などにも取り入れられるようになりました。しかし、日本ではノーマライゼーション＝特別な支援と捉えられることもあり、理念の本質が十分に浸透しているとは言えないようです。

本来のノーマライゼーションは、支援することよりも、分けないこと、一緒に暮らすことに重点を置いています。それは制度や施設の整備だけでなく、社会全体の意識を変えることが求められる理念なのです。日本では、バリアフリーの推進や特別支援教育の充実、地域包括ケアシステムの導入など、ノーマライゼーションに基づく取り組みが進められています。これらの施策は、障害のある方や高齢者が安心して暮らすために大切なものです。しかし、現場ではさまざまな課題もあります。たとえば学校では、インクルーシブ教育が進められているとはいえ、支援学級と通常学級のあいだに見えない壁が存在しています。障害のある児童がクラスの中で孤立したり、周囲の理解が十分でなかったりすることもあります。就労の場でも、障害者雇用枠は設けられていますが、職場では仕事を任せられない、対応が難しいといった声が根強く、実質的には採用を避ける企業も少なくありません。数字上の雇用は進んでいても、実態は理念から大きく離れているのが現状です。この問題については、来週の会長時間でお話したいと思います。高齢者の問題も同様です。老人ホームや高齢者住宅の整備は進んでいますが、地域の中で自然に暮らすための仕組みはまだ十分とは言えません。高齢者が商店街や公園、地域の行事に参加できるような、暮らしの場が確保されなければ、ノーマライゼーションとは言えないのです。

ノーマライゼーションは、特定の人たちだけの問題ではありません。なぜなら、私たちは皆、いつか年を取り、体が不自由になったり、社会の支援を必要とする立場になったりするからです。誰もが当事者になりえるわけです。つまり、ノーマライゼーションは他人のためではなく、自分自身の未来のための考え方でもあると言えます。実際、ベビーカーを

押すお母さんや、病気で一時的に車椅子を使う人、言葉の壁に悩む外国人など、誰もが一時的に不自由な立場に置かれることがあります。そのとき、私たちは支援ではなく自然な暮らしができることを望むはずです。そのような社会をつくるために必要なのが、ユニバーサルデザインの考え方です。ユニバーサルデザインとは、すべての人にとって利用しやすいように、最初から設計されたデザインのことで、年齢、性別、国籍、障害の有無などにかかわらず、できるだけ多くの人が安全かつ快適に利用できるようにすることを目的としています。ユニバーサルデザインの定義は、1997年、アメリカの建築家ロナルド・メイスによって提唱された考え方で、特別な対応を必要とせず、最初からすべての人に対応するデザインとされます。ユニバーサルデザインの具体例をいくつか紹介すると、まず、自動ドア。車いす利用者や手がふさがっている人も通りやすくなっています。次に、点字ブロック。視覚障害のある人が道を把握できるように作られています。その他、音声案内付きエレベーターは、視覚に頼らず階を確認できますし、ピクトグラム（絵文字標識）は、言葉が通じない人にもわかりやすく出来ています。広めの通路や多目的トイレは、ベビーカーや車いす利用者も安心して利用できます。こういったものがユニバーサルデザインといえます。そして、それはノーマライゼーションの具体的な形でもあるのです。

バリアフリーとユニバーサルデザインとで参りましたが、ふたつの違いはと言いますと、バリアフリーは、障害や不便があるところをあとから取り除く。つまり、既存の環境を改善することです。対象となる人は主に高齢者や障害者となります。それに対しユニバーサルデザインは、すべての人に配慮したデザインであるため、初めから設計に組み込まれています。年齢、障害、文化など多様な人々が対象となっています。ノーマライゼーションを実現するために必要なのは、制度や建物だけではありません。我々一人ひとりの意識の変化が、何よりも大切です。たとえば、困っている人に声をかけること。違いを受け入れる姿勢を持つこと。誰かを排除しない態度を取ること。そうした日々の小さな行動が、社会全体の雰囲気や意識を少しずつ変えていきます。また、かわいそうだから助けるといった視点ではなく、当然の権利として支えるという視点が重要です。支援や配慮はやさしさではなく、当たり前のこととして考えるべきです。行政や企業、学校といった社会の中枢を担う機関も、理念を正しく理解し、実際の仕組みに落とし込む必要があります。一部の人だけが頑張るのではなく、すべての人が共に生きる社会をつくる担い手としての責任を持つことが求められます。最後になりますが、ノーマライゼーションは、障害者や高齢者のためだけの考え方ではありません。それは、すべての人が普通に暮らせる社会をつくるための理念です。私たちは今、かつてないほど多様な人々と共に暮らす時代に生きています。だからこそ、違いを分けない、ともに生きる社会を目指すことが、これからの時代に求められているのです。ノーマライゼーションの実現には、特別な才能や力はいりません。大切なのは、一人ひとりが気づくこと、そして、できることから始めることです。その積み重ねが、やがて大きな変化を生むのです。

幹事報告

1. きもつきロータリークラブより、6月2日からクラブ事務局移転のお知らせが届いております。
2. ロータリー希望の風奨学金より、“風の便り”（通刊 127号）が届いておりますので、回覧致します。
3. 国際ロータリー日本事務局より、クラブ・地区支援リソース集(2024-25年度版)が届いております。

25-26 幹事報告

1. 7月よりの食事開始時間ですが、ホテルシーズン日南1F “る菜”にて 11時30分からとなります。

ガバナー補佐アドレス

ガバナーノミニー、デジグネートについてです。ガバナーエレクトが西本さん、ガバナーノミニーが有村さんまでは決まっていますが、次のガバナーノミニーデジグネートについては、本来宮崎からという事で宮崎県中部グループから輩出する予定になっていましたが、宮崎中部の候補者の方が体調を崩され、候補される方はですね。それでだめになりまして、西部の方からも出せないということになりまして、結局4月末の時点で宮崎県から出せないということになりまして、ガバナーノミニーデジグネートについては、鹿児島県から出す予定になったということで。なので、鹿児島県が2年続くという状態になりましたという事を皆様にご連絡しておきたいと思います。一応候補者も2人ぐらい決まっていますが、クラブがそれを容認できるかどうか、そこら辺の話し合いは今とられてるところでございます。

＝ 結婚・誕生者 卓話＝

〈誕生〉 甲斐信之君（1959年5月21日）



ラブにも4年間在籍させて頂きましたが、来月で脱会させて頂くことになり、後任が決まり次第だと思います。結婚40年目にあたり婚姻に関する話として、最近では仲人を立てて結婚する人は殆どいなくなりました。いつ頃から仲人のいない婚姻を行うようになったのか、当金庫の職員数十人にアンケートを行ったところ、昭和から平成15年までに結婚した職員は、ほぼ仲人を立てておりました。平成15年以降から仲人なしで結婚した職員は、ほぼ仲人を立てていない職員はほとんどいませんでした。約20年前から少なくなり、ほとんどなくなったと考えられます。また、併せて結納の儀式を行ったかどうかと同時に聞いてみたところ、平成15年以降は、ほとんど結納はしていないが、平成25年頃になる殆どが結納もしていないという結果でした。平成10年間は、仲人はいないものの、結納は行っていたと推測されます。しかしながら、最近でも、結納を行った職員はいました。ちなみに、我が家は12年前に結婚した長女は、仲人を立てずに結納を行いました。結婚した長男、4年前に結婚した次女は、結納はしていません。最近では、コロナの影響もあって、結婚式の出席者も減っており、令和以降、職員の結婚式には一度も参加していません。人と人とのつながりを深く、日本の文化がなくなっていくのは、少し寂しい気もしますが、時代の移り変わりとともに、結婚のあり方も変化しているように感じられます。

西島 元利君 松田圭司君、入会おめでとうございます。商工会議所青年部で苦楽を共にした間柄として、ロータリークラブで一緒に活動できると思うと笑顔が止まりませんのでスマイルします。

[illegible]

25-26 地区研修・協議会情報

5月18日(日)延岡 野口遵記念館にて 25-26 地区研修・協議会に行ってきました。



出席者

峰松次期ガバナー補佐
斉藤次期会長
入中次期副会長
築瀬次期SAA
井野畑次期会員増強委員長
西島次期広報委員長
竹井次期RC財団委員長
豊田次期社会奉仕委員長
菊池次期幹事



開会点鐘
西本ガバナーエレクト



国歌・ロータリーソング斉唱



四つのテスト唱和
吉田地区研修協議会幹事



開会挨拶
秦実行委員長



出席者紹介
西本ガバナーエレクト
峰松次期ガバナー補佐紹介



ガバナー挨拶
笹山ガバナー



RI メッセージ地区方針説明
西本ガバナーエレクト



クラブ運営説明
井福次期地区ラーニングファシリテーター



地区戦略計画説明
押川次期地区戦略計画委員長



規定審議会説明
風呂井規定審議会代表議員



RLI 説明
山田次期 RLI 委員長



次期地区総会説明
大久保次期地区幹事



ガバナー月信説明
長友次期ガバナー月信委員長



公式訪問日程要項説明
岩佐次期地区筆頭臨幹事



地区大会案内
甲斐次期地区大会実行委員長



ガバナーノミニー紹介
西本ガバナーエレクト



ガバナーノミニー挨拶
有村ガバナーノミニー



閉会の挨拶・点鐘
西本ガバナーエレクト

事務局〒887-0014 日南市岩崎 3-4-2 Itten 堀川ビル 2F 創客創人センター内 TEL0987-22-3363・FAX0987-22-3515

会長：築瀬 敦 副会長：斉藤篤史 幹事：石灘寛樹 雑誌会報広報委員長：菊池希樹

雑誌会報広報委員会より 情報、原稿は、admin.pmy06@honda-auto.ne.jp まで送信してください

